トピックス
1. 播州日誌「吾輩は猫である」
2. 社労士への道 17 回「仕事を楽しむ」

福留経営労務管理事務所
姫路龍馬会
社会保険労務士・行政書士
福　留　　章

龍　馬　通　信

No. 49
2022 年 1 月号

年頭にあたって

新年明けましておめでとうございます。コロナ禍の収束が期待されたのも束の間、オミクロン株の出現によって状況は一変し、第６波の心配が出てきました。ぬか喜びとはこのような事を言うのでしょうか。

日本でのワクチン接種率は出遅れたものの、着実にその数字を伸ばし 11 月には２回接種終了が 78%という世界でも上位にランクされています。ところがどうやらオミクロン株はワクチンをすり抜けて感染するようで、いわゆるブースター感染（2 回接種後の感染）の力があるようで、政府は 12 月医療従事者を対象に３回目のワクチン接種を前倒しして、介護従事者、高齢者へと対象拡大を図るようです。10 月 30 日に緊急事態宣言が解除となって以来、感染者数、重症化率、致死率ともに激減しました。専門家でもその実態はわからないとのことです。幸いにも 12 月も低い水準が続きそのまま年末年始を迎えることになりました。このまま収束に向かうのかオミクロン株の大流行により第６波が襲来してしまうのか、今しばらくはせめぎ合いが続きそうです。経済の停滞は多くの生活困窮者を出現させます。飲食店の嘆きはまだまだ長期戦になりそうです。ポストコロナよりウィズコロナを考える必要があります。研究を繰り返しコロナの変異株の正体をつきとめ、感染しても重症化したり死亡に至ることにならないようにする必要があります。やはり理性を発揮し、創意工夫してコロナと寄り添わなければなりません。感染予防としてワクチン接種を受けること、そして健康体を維持し免疫力を高めて感染を防がなければなりません。手洗い・うがい・マスク着用はもちろんのこと、密を避け、うつらない・うつさないを徹底しなければなりません。

冬至（12 月 22 日）を過ぎると少しずつ昼間の時間が長くなってきます。大自然の動きは静かに息をひそめるように少しずつ変化をさせていきます。最近は大自然の怒りと感じるほど大きな災害が多く発生しています。地球規模で考えた場合、静かにその営みを続けるのが本来の大自然です。薄皮が少しずつはがれていくように２年前の日常が戻ってくるかもしれません。それを目指して賢く、コロナと付き合うことが大切なことだと思います。もう少し、もう少しの我慢を、やがてこの現実を笑い話にできる日がきっと来るはずなのです。

新年あけましておめでとうございます。

私事ですが今年から子どもたちが小学生にあがります。ピカピカの１年生…。ランドセルを背負って小学校へ登校するなんてまだまだ先の事かと思っていましたが、月日が経つのは早いですね。

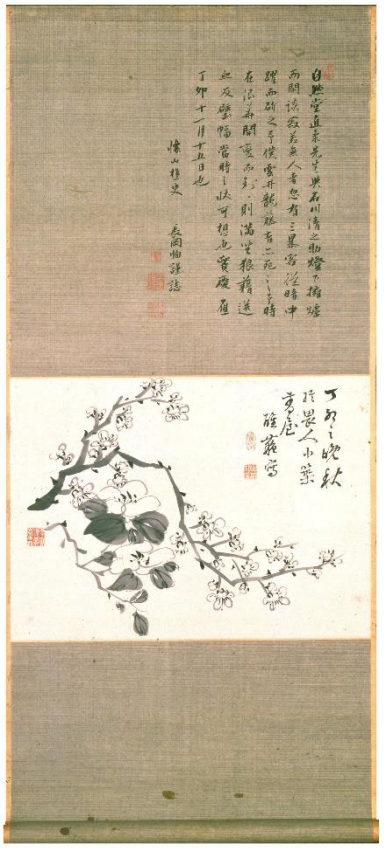
昨年も大変お世話になりました。

至らない点も多々あるかと思いますが、今年もどうぞよろしくお願い致します。　　事務員　江平・今村

『龍馬と私』　～　龍馬暗殺　～

慶応３年（1867 年）11 月 15 日。

京都河原町蛸薬師の醤油屋近江屋の二階で陸援隊の中岡慎太郎と会談中、不意をつかれ、たいした反撃をすることもなく７人の刺客に襲われ落命した。享年 33 歳。龍馬は即死、下僕山田藤吉は翌日、中岡は翌々日に絶命。大政奉還が成ったのが 10 月 13 日。わずか１カ月後の事である。いくつかの不幸が重なった。近江屋のすぐ近くに土佐の藩邸があったが、龍馬を親しく招き入れる雰囲気ではなかった。なぜなら龍馬は土佐藩を２度脱藩して、二度とも許されるが、二度目に許された際に、帰藩の意向を出していなかった。龍馬は遠慮して藩邸への出入りを自粛し、近くの近江屋に逗留していた。二つ目の不幸は龍馬が当時、風邪を引いており本来の秘密の部屋（土蔵）から母屋２階に移っていたこと。土蔵からは万一の場合、逃げ切れるよう、はしごも用意され、近くの寺へ避難することになっていた。三つ目の不幸は当時、龍馬と中岡の間柄はその主張が異なっており険悪なムードがあった。穏健な政権移譲を主張する龍馬に対して、中岡はあくまでも武力倒幕を主張していた。盟友であった彼らはお互いに激昂して不測の事態に至らぬよう、刀を遠くの床の間へ置いており、咄嗟のことに刀を取って闘うことができなかったのである。龍馬は最期まで「刀を…刀を…。」と言いつつ絶命したといわれる。世相を考えれば龍馬暗殺は必然といってよい程、差し迫った危険な状態だった。大政奉還は佐幕派はもちろんの事、武力倒幕を主張する勢力からも許し難い出来事であった。龍馬はそのことに気付いていなかったのだろうか。余りにも無防備すぎる。生来の楽天と無頓着が第一であり危機意識が薄かったのも事実。１つには１年前（1866 年）正月 24 日寺田屋事件。百人もの捕り手に囲まれながら大怪我はしたものの、九死に一生を得ている。このことが龍馬の油断につながったのかもしれない。犯人説、黒幕説、果ては本当の暗殺の標的は中岡慎太郎ではなかったかなど諸説紛紛。研究者の研究は今尚、真実を求めて継続されている。維新回天の縁の下の力持ちとして、果たした龍馬の功績は大きい。功労者である龍馬がいともあっけなく犬ころのように斬殺されてしまった事実に、愛惜の念は消えることはない。歴史にたらればはない。しかし龍馬が生き延びていたら少なくとも海外貿易、経済交流という面では随分活躍しただろうと思う。狂心的な刺客により龍馬の夢はむなしく潰れてしまった。



播州日誌　「　吾輩は猫である　」

名前は今だにない。ずい分と寒くなって、吾輩の出勤もしっかり陽がのぼってからになる。よってあいつともしばらく会っていない。あいつって？例のぶつぶつモノを言いながらウォーキングしている奴。噂では近くの高砂西インターあたりに住んでいるらしい。

仕事は社労士。開業から令和４年１月１日で満２５年。26 年目に入るそうな。ずい分長い事やっているんだが、頑固でせっかちだから時々失敗もするらしい。まあ、とり得は元気な事かな。殆んど毎日、少々の雨ぐらいなら平気でウォーキングしている。根が凝り性だから仕方ない。先生と呼ばれるほどのバカじゃなしと巷で言うけれど、若い頃はバカもしたらしい。奥さんが大人しい人だから、いい気になってネオン街で飲みまくっていた。一度だけ奥さんからきつい一声があったらしい。朝帰りの旦那に「悪いけど新聞配

達よりは早く帰ってきて。」まあ、大変な酒好きらしいが、二日酔いは殆どしないと言う。日頃から「親爺は何も残してくれなかったけど強い肝臓を与えてくれた。」と嘯いていた。いい年をしてまだ夢があるんだって。外国人実習生の管理団体の事業をはじめるんだと。事業を通じで日本と日本国民、ベトナム国とその国民の共存共栄を果たすんだと。ようわからんけど！！

「少しは年を考えて体をいたわれよ。」と言ってやりたいが、まあ、野良猫の吾輩の忠告などおそらく右から左へスルーするだけだろうよ。え、何であいつの事が気になるのかって？そりゃあ、毎朝、毎朝、吾輩がじっとして社会全体の有様をみている時、決まった時間にやってきて吾輩を無視して変なストレッチをしてさ、だから一寸とだけ気になるのよ。好きじゃないよ、あんな奴。第一あいつは犬派だからな。猫なんでずるくて、情がなくて気色わるいって言っているんだから。寒くなってきて早朝は寝呆を決め込んでいるから今は会っていないけど、何も気にしないよ。まあ、暖かくなって日が長くなったら又、いつもの場所で付き合ってやってもいいなと思っているよ。知らんけど。

2021.11.19

「　サクラサク　」

ずい分と昔。東大の受験生に依頼されて、在校生がバイトとして、合格の連絡を請負った。当時は PC もホームページもなく一番早いのが電報だった。合格は「サクラがサイタ」と打電されたのである。それにならって大学に合格した時、当時の彼女に「サクラサク、１０ジ、ハリマヤバシニテマツ」と電報を打った。季節は３月の初旬、いくら高知とはいえ桜の開花はもう少し後になる。彼女はサクラサクの意味が判らず、てっきり試験に落ちたものと思ったらしい。ハリマヤ橋の土電（路面電車）の停留所から降りてくる、彼女の親は蒼白。どんな顔をしたらいいのか迷っているといった感じ。サクラサクって合格したという事だよ。と言う私の言葉をさえぎるように何だ、それならよかったけど。と言って私の胸を二、三度たたいた。いつもの通り帯屋町筋を歩いて高知城へ。彼女も元気を取り戻し楽しい１日になった。それから 50 年の月日が流れ全く違った道を歩いた彼女のその後を知らない。青春の１ページ。

平成８年　社会保険労務士の事務所を開業して 25 年。一昨年の 12 月 26 日にはようやく賃貸していた事務所全体のビルを購入した。この１月１日から 26 年目が始まる。「逆境が人を強くする」とは身に染みる先人の教訓だが、文字通り筆舌に尽くしがたい地獄からの復活。偏に多くの人の支援があって成し得た事。昨年 11 月 19 日には、理事を務めるＢＭサービス協同組合に念願の外国人実習生管理団体の許可がおりた。それを機に住居と事務所を改修し、設備、備品を一新した。そして 12 月１７日事務所玄関に社労士事務所と共同組合の名札があがった。始めてそれを目にした時は感動した。まさに「サクラサク」の一瞬だった。新しい事業に船出する。艫舵なき船の大海に乗り出せし如き心境である。「サクラサク」この報告を誰にしようかと、ふと思った。父と母そして早逝した姉と兄と弟に送ろうと思う。静かに心の中で・・・。

2021.12.19

「社労士への道」

第 17 回　「仕事を楽しむ」

国道２号線。ＪＲ有年駅前を通過して少しすると、千種川にかかる橋を渡る。うっかりしていると見逃してしまうが、渡り切ったところに赤色灯がまわっている。右折して細道に入る。しばらくその道を走る。前方から車（トラック）が来ると、とても離合できないのでわずか 3～4 分の間だけれど、祈るような気持ちで通過する。村へと続く道の途中にＤ養鶏場への登り口がある。左折して山道を登ること 7～8 分。途中防疫の為の消毒設備があって靴底と車全体、手指消毒などをする。ミスト状でおりてくる消毒剤で車全体の消毒をする。養鶏場では必ずある関所のようなものだ。曲がりくねった山道をいく。月に一度の安全衛生委員会の日。原則第３月曜日が定例になっている。この会社の顧問になって６年目になる。しっかりとした管理者に恵まれて委員会のレベルは高い。目下の課題は委員会で審議・検討した内容をいかに会社全体にフィードバックするかである。注意喚起のポスターを目の高さを基準に必要箇所に表示する。ステッカーのような小さなものもある。そして古くなったら更新する。外国人も実習生研修生を中心に多数雇用している。従って契約書はもちろん、注意書などもすべて３ヵ国語以上の表記となる。議事録も英語付きである。無災害の記録も複数の場所に掲示している。１度は 1000 日を突破したことがあった。４日以上の休業となった場合と重大な労災事故につながったかもしれないといった場合など０にリセットされる。もちろんそれも安全衛生委員会で決定する。この会社の場合、この 12 月で第 97 回の開催となる。残念乍ら 11 月３日局地的な大雨の為、地区全体に停電が発生した際、その緊急事態の鶏舎確認作業中、労災が発生。230 日だった無災害記録がリセットされた。従って 12 月 20 日現在 48 日という記録になる。危険場所・作業の特定などリスクアセスメントも実施。全ての面で写真を多用して「見える化」が進んでいる。安全衛生委員会の究極の目的は重大事故を起こさない事、そして会社全体の共通認識として安全と衛生についての意識のレベルの何上である。事実上、ささいな労災事故の根絶は難しい。再発防止もさることながら事故を未然に防ぐ事が何よりも大切で私は「自分の身体と心は自分で守る」という事を強調している。12 月の安全衛生委員会では繁忙期にあたる年末年始の無災害とコロナ感染防止を検討した。それに伴う交通安全を中心に１時間の会議を終えてその他の事務的な打ち合わせ後、会社を後にする。

山道を往復する際の楽しみがある。それは野生のシカと遭遇することである。２回に１回位の割合で現れる。この辺の鹿は成獣となっても小型の種類で奈良の若草公園の鹿の半分の大きさでしかない。実に可愛らしく本当に真近に見ながら低速で通過する。何やら幸せな気分になる。

安全衛生委員会では安全パトロールや安全ミーティングの結果報告やチェックもする。そのように会議へのアドバイザーとして出席を５軒程受け持っている。月間の仕事の中でも私にとっては重要な仕事で、無災害の記録が１年２年と続いている時は本当に仕事冥利につきる。労災発生の報告は月に数件に及ぶが、その度に心が痛くなる。労災発生は１つもよい事がない。本人も痛い目をし、家族の心配もある。会社としても大きなマイナスとなるからだ。今日は楽しみにしていた鹿にも合う事ができた。事務所までの帰路約 45 分。無事に仕事を終えた解放感と小さな達成感を感じながら車を走らせている。

2019 年 10 月 16 日　車窓より撮影

（次回で最終回となります）